

ごあいさつ

三井住友建設技術研究開発報告第 13 号の発刊にあたり、ご挨拶申し上げます。

日本経済は、政府の財政再建政策や東京オリンピックへの期待感などにより緩やかな回復基調にありますが、中国経済の影響やオリンピック後の景気低迷の懸念など先々の不透明感を残しています。また、南海トラフの巨大地震など予測される災害に対して、強靱な国土の形成も重要な施策として展開されています。建設市場においては、インフラ整備という重要な使命を担い景気回復にともなう工事量の増加が見込まれる一方で、少子高齢化による労働力不足、技術者不足が深刻化して来ている状況です。

労働力不足を解消する一方で高品質を確保する施策や安心安全な社会の形成への要求が益々高まり、技術開発の分野においても、省力化・省人化技術、ICT 利用技術、環境エネルギー関連技術、インフラ再生技術、防災減災技術などに技術開発の重心が置かれています。

今回お届けする報文集から名称を改め「三井住友建設技術研究開発報告」としましたが、これまでの報文集から通算して第 13 号の発刊となりました。本号では、「合成構造による橋梁」などの生産性向上技術、コンクリートの品質向上技術、「液状化による側方流動対策」「免震積層ゴムの引抜き対応機構」など地震防災関連技術、ICT を利用した施工管理技術、「トンネル補修や維持管理」などのインフラ再生技術など合計 17 編の論文を掲載しています。

弊社では、平成 27 年度より新たに技術本部が発足し、長期を見据えた技術開発戦略の下、土木建築両分野の技術の融合を標榜したユニークな組織として活動しています。技術研究所もその技術本部の中にあって、土木建築の垣根を越える橋渡し役として技術の融合をさらに加速させる所存です。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

2016 年 2 月

技術研究所長
谷垣正治